

科目名 (英)	刑事司法と福祉	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小谷野 和悟
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間		開講区分	1 期 火 曜 5 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 生活困窮者支援、就労継続支援事業所の管理等の経験が計13年ある。公益社団法人埼玉県社会福祉士会司法福祉委員会副委員長。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 刑事司法と福祉の連携について、生活困窮が原因による刑余者への支援、触法障害者への支援の経験がある教員が、刑事司法の概要と司法領域で求められる社会福祉士の役割とその視点について講義を行います。近年の刑事司法では、様々な専門職がかかわっています。その役割が理解できるよう整理して伝えていきます。また、司法領域での社会福祉士の活動の実際と弁護士等との連携について、事例を交えてお伝えします。							
【到達目標】 ①相談援助活動において必要となる刑事司法と福祉について理解する。 ②刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 ③刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 刑事司法と福祉 中央法規 犯罪白書等				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 刑事司法と福祉の関係がどのように展開してきたか確認する。 【授業内容】 第1章 「刑事司法と福祉」総論			9	【到達目標】 保護観察、仮釈放を中心に更生保護の実際について理解し、現在広がりをみせている更生保護におけるネットワークを理解する。 【授業内容】 第10章 社会内処遇②更生保護の実際		
2	【到達目標】 日本の刑事司法の特徴と問題について学ぶ。犯罪原因論を学び、ソーシャルワーカーとしての対応を考える。 【授業内容】 第2章 社会と犯罪 第3章 犯罪原因論と対策			10	【到達目標】 医療観察法の概要および手続の流れを確認し、社会復帰調整官の役割や医療観察制度にかかわるソーシャルワーカーの役割を理解する。 【授業内容】 第11章 多様なニーズを有する犯罪行為者①精神障害者を対象とした医療観察制度		
3	【到達目標】 刑罰の本質と機能を知り、刑罰の適用状況を把握する。 【授業内容】 第4章 刑罰とは何か			11	【到達目標】 司法と福祉の連携、地域生活定着支援センターの役割を確認し、犯罪や非行に至った高齢・障害者の特徴、支援の実際を理解する。 【授業内容】 第12章 多様なニーズを有する犯罪行為者②高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉		
4	【到達目標】 刑事手続の概要と重要な原則、犯罪の成立要件等のついて学び理解する 【授業内容】 第5章 刑事司法			12	【到達目標】 刑事司法におけるアディクション対応やソーシャルワークについて理解する。 【授業内容】 第13章 多様なニーズを有する犯罪行為者③アディクションを抱える人と刑事司法		
5	【到達目標】 少年法の目的や機能を確認し、成人の刑事手続とは異なる少年保護手続の流れを理解した上で、少年司法制度上の処分とその適用状況を学ぶ。 【授業内容】 第6章 少年司法			13	【到達目標】 犯罪被害者支援に関する制度概要を理解する。刑事司法とかかわった人へのソーシャルワークにおいて対象者へのニーズを理解する。 【授業内容】 第14章 犯罪被害者等支援 第15章 コミュニティと刑事司法		
6	【到達目標】 刑事施設における処遇の在り方や刑事施設における福祉専門職の業務内容を把握し地域生活に向けた支援の在り方、連携の在り方を理解する 【授業内容】 第7章 施設内処遇 成人			14	【到達目標】 これまでの授業の振り返りを行い、この科目における学習のまとめを行い、理解することができる。 【授業内容】 全章の総復習		
7	【到達目標】 少年院及び少年鑑別所の組織体制と処遇について確認。少年院における矯正教育の在り方と社会復帰支援について学ぶ。 【授業内容】 第8章 施設内処遇 少年			15	【到達目標】 本科目における自身の理解を試し、必要な知識を確認する。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 非行・犯罪臨床の概要、更生保護の歴史的展開について理解し、更生保護におけるソーシャルワーカーの役割と課題を理解する。 【授業内容】 第9章 社会内処遇①更生保護の理念と概要			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	Foundation and Profession of Social ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通]	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	末田 譲
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期第1クール 水曜 5.6 限
学科・コース	社会福祉士養成						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 医療機関で約15年、精神科病棟、一般内科病棟、回復期リハビリ病棟、介護老人保健施設で入退院支援業務の勤務経験を要する社会福祉士・精神保健福祉士							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 文章や理論だけでは理解しづらい内容を医療機関での社会福祉士、精神保健福祉士の経験を生かして分かりやすく説明を行う。そして、現場ならではの職種間の価値観や立場の違いによるずれ違いや課題、ジレンマ、体験等を説明した上で、共に解決策を考える事を通じて社会福祉士に必要な実践的な臨床力とチーム形成力を養う。							
【到達目標】 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門] 中央法規				【授業外における学習】 授業内で行うテストやテキストの内容を復習し、模試や過去問を解くということを繰り返して基礎知識の習得と問題を解く経験を養ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士について及び社会福祉士、介護福祉士法について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ [1章・1節、2節]			9	【到達目標】 ・ソーシャルワークの源流と基礎確立期について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程 [4章・1節]		
2	【到達目標】 ・精神保健福祉士法について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ [1章・3節]			10	【到達目標】 ・ソーシャルワークの発展期について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程 [4章・2節]		
3	【到達目標】 ・社会福祉士および精神保健福祉士の専門性について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ [1章・4節]			11	【到達目標】 ・ソーシャルワークの展開期と統合化について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程 [4章・3節]		
4	【到達目標】 ・社会福祉士、精神保健福祉士の専門性・求められるコンピテンシーについて理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ [1章・5節]			12	【到達目標】 ・日本におけるソーシャルワークの形成過程について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの形成過程 [4章・4節]		
5	【到達目標】 ・ソーシャルワークの定義について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの概念 [2章・1節]			13	【到達目標】 ・専門職倫理の概念、倫理綱領について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの倫理 [5章・1節、2節]		
6	【到達目標】 ・ソーシャルワークの構成要素について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの概念 [2章・2節]			14	【到達目標】 ・倫理綱領、倫理的ジレンマについて理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの倫理 [5章・2節、3節]		
7	【到達目標】 ・ソーシャルワークの原理について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの基盤となる考え方 [3章・1節]			15	【到達目標】 これまでに学んだ内容について理解度の確認と課題を抽出する。 【授業内容】 定期試験(前)		
8	【到達目標】 ・ソーシャルワークの理念について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークの基盤となる考え方 [3章・2節]			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	Foundation and Profession of Social ソーシャルワークの基盤と専門職 [社会専門]	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	末田 譲	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期第1クール 水曜 5.6 限	
学科・コース	社会福祉士養成							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 医療機関で約15年、精神科病棟、一般内科病棟、回復期リハビリ病棟、介護老人保健施設で入退院支援業務の勤務経験を要する社会福祉士・精神保健福祉士								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 文章や理論だけでは理解しづらい内容を医療機関での社会福祉士、精神保健福祉士の経験を生かして分かりやすく説明を行う。そして、現場ならではの職種間の価値観や立場の違いによるずれ違いや課題、ジレンマ、体験等を説明した上で、共に解決策を考える事を通じて社会福祉士に必要な実践的な臨床力とチーム形成力を養う。								
【到達目標】 ①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 ・ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門] 中央法規				【授業外における学習】 授業内で行うテストやテキストの内容を復習し、模試や過去問を解くということを繰り返して基礎知識の習得と問題を解く経験を養ってください。				
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 ・ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・1節]			9	【到達目標】 ・総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を理解できる。 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・1節]			
2	【到達目標】 ・社会福祉士の職域と役割について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・2節]			10	【到達目標】 ・ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について理解できる。 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・2節]			
3	【到達目標】 ・多様な組織、機関、団体における専門職について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・3節]			11	【到達目標】 ・多職種連携およびチームアプローチの意義と内容について理解できる。(1) 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・3節]			
4	【到達目標】 ・諸外国の動向について理解できる。 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章・4節]			12	【到達目標】 ・多職種連携およびチームアプローチの意義と内容について理解できる。(2) 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章・3節]			
5	【到達目標】 ・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の復習 【授業内容】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 [6章]			13	【到達目標】 ・総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容の復習 【授業内容】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 [8章]			
6	【到達目標】 ・ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について理解できる。 【授業内容】 ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワーク [7章・1節]			14	【到達目標】 学んだ内容の総復習と課題抽出 【授業内容】 ソーシャルワークの基盤と専門職 [6章～8章:社会専門]			
7	【到達目標】 ・ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について理解できる。 【授業内容】 ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワーク [7章・2節]			15	【到達目標】 これまでに学んだ内容について理解度の確認と課題を抽出する。 【授業内容】 定期試験(後)			
8	【到達目標】 ・ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの復習。 【授業内容】 ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワーク [7章]			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価				
【特記事項】								

科目名 (英)	ソーシャルワークの理論と方法(共通) Social Work Theory and Methods(common)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小島 知子	
		授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	第1クール 木 曜 5・6 限	
学科・コース	社会福祉士養成科							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ソーシャルワークの基本的な理論と方法について、実務経験を活かし、適宜、事例なども紹介して、具体的なイメージが持てるような授業を展開する。本科目はソーシャルワークの基礎となる理論と方法を学ぶ科目であり、テキスト・レジュメで重要項目を確認するとともに、事例検討、DVD視聴なども適宜取り入れて、理解を深める。また、国家試験での解答力をつけるために、過去問題を解く時間を適宜設ける。								
【到達目標】 ・ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用に関する理論、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。 ・ソーシャルワークの過程とそれにかかる知識と技術について理解する。 ・ソーシャルワークの様々な実践モデル、アプローチ、コミュニティワークの概念と展開等について理解する。その他ソーシャルワークに関連する諸技術、知識を理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 新・社会福祉士養成講座⑦『ソーシャルワークの理論と方法(共通)』 中央法規 講師が用意する授業レジュメ・資料					【授業外における学習】 メディアによる多様な社会問題の記事・ニュースに触れ、社会の動きを捉える。 社会福祉に関する多分野、多地域の課題や取り組みに関心を持つ。			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 人と環境の交互作用を理解し、ソーシャルワーカーが学ぶべき理論を把握する。 【授業内容】 システム論、生態学理論に基づくソーシャルワーク理論の概要。ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワークの概要				9	【到達目標】 ソーシャルワークにおける記録の意義、目的、技術を理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおける記録の意義、目的、主な記録法と様式		
2	【到達目標】 ソーシャルワークのプロセスを理解する1 【授業内容】 ケース発見からインテーク、アセスメントまでのプロセスの要点				10	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるケアマネジメント。コミュニティワーク、地域アセスメント 地域組織化等の要点		
3	【到達目標】 ソーシャルワークのプロセスを理解する2 【授業内容】 プランニングから支援の実施、モニタリング、終結とアフターケアに至るプロセスの要点				11	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるグループワークの意義と方法を理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるグループワークの意義と方法。準備期～終結期に至る展開過程の要点		
4	【到達目標】 1～3の学習のまとめ 【授業内容】 1～3回の授業の学習のまとめ。レジュメに沿って要点を再確認する。				12	【到達目標】 9～11の学習のまとめ 【授業内容】 9～11授業の重要事項を再確認		
5	【到達目標】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを理解する1 【授業内容】 3つのモデルと心理社会的アプローチから問題解決アプローチ等20世紀前半から中盤にかけて登場したアプローチの概要。				13	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの概要。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの概要と事例		
6	【到達目標】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを理解する2 【授業内容】 20世紀後半にかけて登場した主なアプローチの概要、実際の活用例。				14	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションの技術を理解する。 【授業内容】 ソーシャルワークにおけるスーパービジョン関係、形態、コンサルテーションの概要		
7	【到達目標】 ソーシャルワークにおける面接の構造、スキルの要点について理解する 【授業内容】 面接の流れ、形態、質問法、要約、ポジショニング主な技法の要点				15	【到達目標】 本科目の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 本科目で学習した内容を再確認する。・定期試験		
8	1～7の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 1～7授業の重要項目を再確認 定期試験				【評価について】 五肢択一問題により行う。授業内で確認した基本的な知識・技術の理解、定着度を確認する。			
【特記事項】 疑問点は積極的に質問してください。								

科目名 (英)	ソーシャルワークの理論と方法(専門) Social Work Theory and Methods(specialty)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小島 知子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	第2クール 木 曜 5・6 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ソーシャルワークの基本的な理論と方法について、実務経験を活かし、適宜、事例なども紹介して、具体的なイメージが持てるような授業を展開する。本科目はソーシャルワークの基礎となる理論と方法を学ぶ科目であり、テキスト・レジュメで重要項目を確認するとともに、事例検討、DVD視聴なども適宜取り入れて、理解を深める。また、国家試験での解答力をつけるために、過去問題を解く時間を適宜設ける。							
【到達目標】 ・複雑化・多様化する社会問題に対応していくために実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法を理解する。 ・地域における社会資源の開発、地域住民が主体的に地域の課題解決に取り組んでいける体制構築等についての知識と技術について理解する。 ・援助関係の形成、ニーズの掘り起こしを行うための知識と技術について理解する。 ・個別事例の具体的な解決策をさぐると共に、事例の共通性、一般性を見出すための事例分析の意義方法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 新・社会福祉士養成講座⑦『ソーシャルワークの理論と方法(専門)』中央法規 講師が用意する授業レジュメ・資料				【授業外における学習】 メディアによる多様な社会問題の記事・ニュースに触れ、社会の動きを捉える。 社会福祉に関する多分野、多地域の課題や取り組みに関心を持つ。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセス、スキルの理解1 【授業内容】 家族の理解と家族支援の実際			9	【到達目標】 ソーシャルワークにおける事例分析・事例研究を理解する。 【授業内容】 事例分析・事例検討・事例研究の目的・要点		
2	【到達目標】 多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセス、スキルの理解2 【授業内容】 地域支援の実際、非常時、災害時支援の実際			10	【到達目標】 ソーシャルワークに関連する技法を理解する1 【授業内容】 ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューションの概要		
3	【到達目標】 ソーシャルワークの援助関係の形成の理解 【授業内容】 自己覚知、バ이스テックの原則、エンパワメント、ストレングス等の要点			11	【到達目標】 ソーシャルワークに関連する技法を理解する2 【授業内容】 ファシリテーションの概要		
4	【到達目標】 1～3の学習のまとめ 【授業内容】 1～3回の授業の学習のまとめ。レジュメに沿って要点を再確認する。			12	【到達目標】 9～12の学習のまとめ 【授業内容】 9～12授業の重要事項を再確認		
5	【到達目標】 ソーシャルワークのネットワーク形成について理解する 【授業内容】 ネットワークの機能、構築 コーディネーションの意義、目的、ソーシャルキャピタル等の要点			13	【到達目標】 ソーシャルワークに関連する技法を理解する3 【授業内容】 プレゼンテーションの概要と実例		
6	【到達目標】 ソーシャルワークの社会資源活用。開発を理解する 【授業内容】 社会資源の活用と調整 開発の要点			14	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の実際に触れる。 【授業内容】 ソーシャルワーク実践の事例の読み合わせ。動画視聴等		
7	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるカンファレンスの構造、方法について理解する 【授業内容】 会議の留意点、ミクロ・メゾ・マクロの会議の概要と留意点			15	【到達目標】 本科目の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 本科目で学習した内容を再確認する。・定期試験		
8	1～7の学習のまとめ・定期試験 【授業内容】 1～7授業の重要項目を再確認 定期試験			【評価について】 五肢択一問題により行う。授業内で確認した基本的な知識・技術の理解、定着度を確認する。			
【特記事項】 疑問点は積極的に質問してください。							

科目名 (英)	ソーシャルワーク演習(共通)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田邊 慎悟／若尾 尚子
	(Practice for Social work)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期(第1クール) 金曜 6・7 限
学科・コース	社会福祉士養成科						
【実務経験】 医療機関や高齢者施設等において、社会福祉士の資格取得後5年以上のソーシャルワークの実務経験がある教員が担当。							
【授業の学習内容】 社会福祉士としてソーシャルワークを実践してきた教員が、実務で経験してきた多様な事例を基に、これまでの学びを実践につなげられる力を養う教育を行う。本 科目は、社会福祉士の理論・方法・技術・価値と実践(実習)との融合を実証する。個人ワークやグループワークを中心に、一人ひとりが自己に向き合い、また互い に意見を交わす中でソーシャルワークの知識と技術を実践的に理解する。							
【到達目標】 ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの発展過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 学習課題に沿って教員が作成したレジュメ				【授業外における学習】 各自、日々の報道等の情報に関心を向け、社会の動きを捉えること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会福祉士とは何者かを理解するとともに、活動領域や正しい専門 職アイデンティティを理解する。 【授業内容】 社会福祉士の使命と役割			9	【到達目標】 アセスメントの本質的な意味を理解し、なぜ困難症例が生まれるか の構造を理解する 【授業内容】 ソーシャルワーク技法③		
2	【到達目標】 社会福祉士倫理綱領に定められる、啓発を踏まえた上で、すべての者に ソーシャルワーカーの役割が伝わるよう、報告できるようになる。 【授業内容】 社会福祉士の使命と役割			10	【到達目標】 インテーク内容からアセスメントを言語化し、記述することができるよ うになる。 【授業内容】 ソーシャルワーク技法④		
3	【到達目標】 自己とは何かを自身の環境から思索し、自己理解に繋がるよう試み ることができる。 【授業内容】 演習の目標・ねらいを理解する。 自己理解と他者理解を通じて、人と環境の相互作用を考える。			11	【到達目標】 インテーク及びアセスメント内容から、プランニングすることができる ようになる。 【授業内容】 ソーシャルワーク技法⑤		
4	【到達目標】 自己理解と自己の価値観の相関関係の理解を試みることができる。 あわせて、価値観の多様化を理解することができる。 【授業内容】 自分と他者の価値観の違いに気づき、自己理解と他者理解を通じ て、人と環境の相互作用を考える。			12	【到達目標】 プランニング内容をクライアントまたは家族に対して説明することが でき、質問に対しても対応ができるようになる。 【授業内容】 ソーシャルワーク技法⑥		
5	【到達目標】 各種団体の倫理綱領を理解したうえで、倫理的ディレンマについて 考察することができる。 【授業内容】 ソーシャルワークの機能を理解し、ソーシャルワーカーの役割を考 える。(グローバル定義、倫理綱領など)			13	【到達目標】 ソーシャルワーカーが記載する記録の意義を理解した上で、面談内 容を記録に残すことができるようになる 【授業内容】 記録		
6	【到達目標】 批判的思考を用いた上で、倫理的ディレンマについて議論を深める ことができる 【授業内容】 倫理綱領というものに対し、アンチテーゼを立てることにより新たな価 値創造を養う			14	【到達目標】 逐語記録、SOAP記録、F-SOAPなどの記録が記載できるようになる 【授業内容】 記録		
7	【到達目標】 ソーシャルワークにおけるコミュニケーションを理解した上で、コミュ ニケーションエラーが起きる構造を考察することができる 【授業内容】 ソシャルワークの技法①			15	【到達目標】 社会福祉士として求められる基礎的なソーシャルワーク能力を涵養 する。(総振り返り) 【授業内容】 定期試験:ソーシャルワークの価値規範と倫理、コミュニケー-ション能 力、展開過程を理解できる。		
8	【到達目標】 インテークをするにあたって、自身の所属、役割などを踏まえて説明 することができ、援助契約を結ぶことができる 【授業内容】 ソーシャルワーク技法②(インテーク)			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を2回実施。点数を合算し試験回数で割 り、以下に換算して評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 E評価の場合、担任面談等を踏まえた上で、特別補講を開講するか検討する							

科目名 (英)	ソーシャルワーク演習(専門) (Practice for Social work)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	佐藤 史子／鈴木 洋／田邊 慎悟
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	演習	総単位 時間	120	開講区分 曜日・時間	後期(第2・第3クール) 火曜 6・7 限／金曜 6・7 限
【実務経験】 医療機関や障害者施設や高齢者施設等において、社会福祉士の資格取得後5年以上のソーシャルワークの実務経験がある教員が担当。							
【授業の学習内容】 社会福祉士としてソーシャルワーク業務に従事した教員が、実務で経験してきた多様な事例を基に、これまでの学びを実践につなげられる力を養う教育を行う。本科目は、社会福祉士の理論・方法・技術・価値と実践(実習)との融合を実証する。個人ワークやグループワークを中心に、一人ひとりが自己に向き合い、また互いに意見を交わす中でソーシャルワーカーとしての価値を深める。							
【到達目標】 ①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てる能力と、倫理的な判断能力を身につける。②支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。③地域アセスメントや評価の仕組み、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの発展過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。④事例検討や事例研究を行い、意義や方法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 学習課題に沿った講師作成のレジュメ				【授業外における学習】 各自、日々の報道等の情報に関心を向け、社会の動きを捉えること。			
回(2コマ)	授 業 概 要			回(2コマ)	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の理解①			32・33	【到達目標】 担当教員の提示事例を通じて支援対象を捉える力を養う。 担当教員の提示事例を通じてソーシャルワークプロセスを理解する。		
2・3	【授業内容】 医療保険制度の理解と実践 歪んだ信頼関係における事例検討			34・35	【授業内容】 ソーシャルワークプロセス「高齢分野」「医療分野」 ソーシャルワークプロセスを理解する。ケース発見等		
4・5	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の理解②			36・37	【到達目標】 担当教員の提示事例を通じてソーシャルワークプロセスを理解する。		
6・7	【授業内容】 介護保険制度における仕組みの理解と実践 障害における制度および関連法の理解			38・39	【授業内容】 ソーシャルワークプロセス「高齢分野」「医療分野」 ソーシャルワークプロセスを理解する。アセスメント、プランニング等		
8・9	【到達目標】 基本的な面接技術・コミュニケーション技法の理論を学び、体験(ロールプレイ)を通して技術・技法理解し、習得する。			40・41	【到達目標】 担当教員の提示事例を通じてソーシャルワークプロセスを理解する。		
10・11	【授業内容】 事例検討及びOSCE			42・43	【授業内容】 ソーシャルワークプロセス「高齢分野」「医療分野」 ソーシャルワークプロセスを理解する。支援の実施、終結、アフターケア等		
12・13	【到達目標】 基本的な面接技術・コミュニケーション技法の理論を学び、体験(ロールプレイ)を通して技術・技法理解し、習得する。			44・45	【到達目標】 担当教員の提示事例を通じてソーシャルワークプロセスを理解する。		
14・15	【授業内容】 OSCE実施試験 ※第1クール終了				【授業内容】 ソーシャルワークプロセス「高齢分野」「医療分野」モニタリング ※第2クール終了		
16・17	【到達目標】 実習における実践場面においてサイコドラマを通し、心理的葛藤を整理するための準備と実践			46・47・ 48	【到達目標】 実践的にソーシャルワークを学ぶ①		
18・19	【授業内容】 サイコドラマにおける目的・効果を理解した上で、事例提供者、監督者、主役等を決定し展開内容を作成し実践する			49・50・ 51	【授業内容】 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える		
20・21	【到達目標】 スーパービジョンの基礎を理解する ソーシャルワーク実践の理解③			52・53・ 54	【到達目標】 実践的にソーシャルワークを学ぶ②		
22・23	【授業内容】 対人援助職者としてのポジショニングを理解した上で、スーパービジョンの基礎を学ぶ、生活保護における基礎と事例検討			55・56・ 57	【授業内容】 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える		
24・25	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の理解④			58・59・ 60	【到達目標】 実践的にソーシャルワークを学ぶ③		
26・27	【授業内容】 災害におけるソーシャルワークの意義と役割を理解する ゲストスピーカーによる、DWATの活動を知る(予定)				【授業内容】 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える		
28・29	【到達目標】 ソーシャルワーク実践の理解⑤			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を2回実施。点数を合算し試験回数で割り、以下に換算して評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
30・31	【授業内容】 生活保護制度の理解 生活保護における保護管轄の検討						
【特記事項】							

科目名 (英)	ソーシャルワーク実習指導 (1/3) (Instruction of Special Practice for Fieldwork)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田邊慎悟・小島 知子
	学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	90	開講区分 曜日・時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 現場での実務経験を活かし、実習の具体的なイメージを持ち、自身の課題を見極められるような指導を展開する。							
【到達目標】 相談援助実習の意義を理解する。社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握能力などを具体的・実践的に体得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 講師が用意する授業レジュメ・資料				【授業外における学習】 地域の自治体の福祉施設の情報や福祉計画を確認する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 実習オリエンテーション:実習の目的、スケジュール、概要を把握する。 【授業内容】 実習手続きを知ると同時に、実習に対する不安事項を表出化し、事柄の解決方法を分類することができる			9	【到達目標】 実習施設を取り巻く環境を整理 【授業内容】 援助は環境の中で実践されていることを知り、援助の構造を理解する。		
2	【到達目標】 ソーシャルワークに関心をもった「きっかけ」の整理 【授業内容】 「きっかけ」を整理することにより、問題意識の原点を整理する。問題意識や学びの視点をつくりあげる土台を形成する			10	【到達目標】 実習施設の特徴を整理する 【授業内容】 実習施設の特徴から、プログラムの意図、実習の達成課題、事前に必要な取り組みを確認する		
3	【到達目標】 ソーシャルワーカーをめざす「動機」を整理 【授業内容】 「動機」を整理することで、目標とするソーシャルワーカー像を描くことができるようになる			11	【到達目標】 実習計画書作成準備 【授業内容】 「わたしにとっての実習の意義」を整理し、具体的達成課題を整理する		
4	【到達目標】 分野学習から現状と課題を把握する 【授業内容】 法制度、施策の動向、援助対象者の現状等を通して、現状と課題についての理解を深める。(障害、高齢、医療、地域等)			12	【到達目標】 実習テーマ及び実習計画書作成 【授業内容】 実習計画書と実習プログラムの関係性を理解し、自己紹介書として実習指導者へ関心事や考えを伝える		
5	【到達目標】 分野学習における報告 【授業内容】 現状と課題についてまとめた内容を他者にプレゼンテーションすることができる。			13	【到達目標】 日誌は単なる記録ではなく、実習指導者及び実習担当教員とも共有し、実習スーパービジョンを受けるためのツールであることを理解する 【授業内容】 実習場面に対して、プロセスレコードや実習ワークシートを活用して、振り返りや学びの視点を理解する		
6	【到達目標】 利用者のコミュニケーション理解 【授業内容】 障害特性等に応じた適切なコミュニケーション、関係形成の意義と関わり方の基本を学ぶ			14	【到達目標】 記録作成トレーニング 【授業内容】 福祉現場の動画を視聴し、記録を作成してみる。		
7	【到達目標】 実習プログラムの意図を理解する 【授業内容】 実習プログラムから「何を学ぶか」を意識し、ソーシャルワークの視点を根拠としたプログラムの目的と効果を理解することができる			15	【到達目標】 実習前面談および学習のまとめ 【授業内容】 これまでの学習をふりかえり、レポートにまとめる。		
8	【到達目標】 ゲストスピーカー(卒業生) 【授業内容】 実習の概要、学びや注意点などを話していただき、実習への理解を深める。			【評価について】 出席日数、レポート等で評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	ソーシャルワーク実習指導 (2/3) (Instruction of Special Practice for Fieldwork)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田邊慎悟・小島 知子
	学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	90	開講区分 曜日・時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 現場での実務経験を活かし、実習の具体的なイメージを持ち、自身の課題を見極められるような指導を展開する。							
【到達目標】 前半の実習をふりかえり、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握能力などを具体的・実践的に体得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 講師が用意する授業レジュメ・資料 実習日誌				【授業外における学習】 地域の自治体の福祉施設の情報や福祉計画を確認する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 援助対象者からの学びを整理 【授業内容】 援助対象者とのかわりから学んだことを整理する			9	【到達目標】 実習テーマ及び実習計画書作成 【授業内容】 実習計画書と実習プログラムの関係性を理解し、自己紹介書として実習指導者へ関心事や考えを伝える		
2	【到達目標】 ソーシャルワーカーの専門性を整理 【授業内容】 ソーシャルワーカーの「価値」「知識」「技術」を意識し、ソーシャルワーカーの専門性を学ぶ			10	【到達目標】 記録のトレーニング 【授業内容】 観察・推察・考察を意識してまとめるトレーニング		
3	【到達目標】 実習施設と地域について整理 【授業内容】 どのような理念をもって援助にあたっているか、実習施設の「援助の価値」を実習施設の取り組みから学んだことを整理する			11	【到達目標】 学習のまとめ及び実習前面談 【授業内容】 学習のまとめシート記入、グループワークでシェア		
4	【到達目標】 利用者理解と支援法: 【授業内容】 応用行動分析			12	【到達目標】 実習目標設定 【授業内容】		
5	【到達目標】 アセスメントと個別支援計画の理解 【授業内容】 アセスメントと個別支援計画の概要、事例			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 アセスメントと個別支援計画の実際 【授業内容】 アセスメントと個別支援計画作成トレーニング			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 ゲストスピーチ(実習指導者) 【授業内容】 実習指導者をお招きし、実習のねらいや概要を話していただき、実習への理解を深める			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 実習テーマ及び実習計画書作成 【授業内容】 実習計画書と実習プログラムの関係性を理解し、自己紹介書として実習指導者へ関心事や考えを伝える			【評価について】 出席日数、レポート等で評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	ソーシャルワーク実習指導 (3/3) (Instruction of Special Practice for Fieldwork)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田邊慎悟・小島 知子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	90	開講区分 曜日・時間	第1・3クール 授業内で配布するスケジュール参照
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害児地域療育、重度重症児の訪問療育、発達相談、障害者支援施設などで支援員・相談員として併せて40年以上の勤務経験がある。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 現場での実務経験を活かし、実習の具体的なイメージを持ち、自身の課題を見極められるような指導を展開する。							
【到達目標】 相談援助実習の意義を理解する。社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握能力などを具体的に・実践的に体得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 講師が用意する資料等				【授業外における学習】 実習先の地域の課題や取り組みに関心を持つ			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 帰校日指導(前半実習2コマ):実習時の不安を軽減し、エンパワメントを図る。 【授業内容】 実習中の学びや困難に思ったこと、その対処法などについてのグループワーク。巡回担当教員との個別面談。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 実習後授業(前半実習4コマ):実習での学びの確認と次の課題整理 【授業内容】 実習目標の達成度や実習体験を出し合い、学びを確認し、今後の自身の課題を抽出する。個別ワーク			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 後半実習前授業(後半4コマ)学びの確認とプレゼンテーション 【授業内容】 実習目標や実習への思いをまとめて、プレゼンテーションを行う。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 実習帰校日(1回目) 【授業内容】 実習前半の学びや困難、その対処法などについてグループワークを行う。巡回担当教員との個別面談			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 実習巡回指導(1回目) 【授業内容】 実習前半の学びや困難などを表出し、担当職員との面談を通してエンパワメントを図る。			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 実習帰校日(2回目) 【授業内容】 実習目標の達成度、個別支援計画の進行状況や課題をグループワークで出し合う。担当教員との個別面談。			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 実習巡回指導(2回目) 【授業内容】 実習目標の達成度や個別支援計画作成の困難などを表出し、担当職員との面談を通してエンパワメントをはかる。			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 実習後教育(4コマ)実習での学びを言葉にし、シェアしあう。 【授業内容】 実習での学び、自身の今後の課題を整理し、プレゼンテーションを行う。			【評価について】 出席日数、レポート等で評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	医学概論 Introduction to medicine	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	白井 良江
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	第2クール 期 水 曜 5 限
学科・コース	社会福祉士養成科						
【実務経験】 大学病院内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。							
【授業の学習内容】 病院・在宅医療を経て施設看護師として勤務している講師が、社会福祉士として必要な人体の構造と機能及び疾病について、医療の現状やより身近な内容を取り入れながら講義を行う。							
【到達目標】 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要・国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要・リハビリテーションの概要について社会福祉士として必要な内容を学び理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 医学概論 中央法規				【授業外における学習】 医療専門用語や難しい内容も多いので、予習して講義をうけるとよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1 8/27	【到達目標】 各期の成長発達、心身の特徴、加齢・老化、健康課題を理解することができる。 【授業内容】P1～P20 P32 学習科目の目的・ライフステージにおける心身の変化と健康課題・人体の名称			9 10/22	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(内分泌系) 【授業内容】P41～P42 P52 P122～P128 内分泌系の構造と機能 内分泌疾患		
2 9/3	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(骨格系 筋系 血液) 【授業内容】P33～P34 P47～P48 P151～P156 血液P46 P56 P67～P68 P157～P160 骨格系、筋系の構造と機能・疾患 血液の機能・疾患			10 10/29	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患(神経系) 高次脳機能障害、認知症を理解することができる。 【授業内容】P42～P43 P53～P55 P101～P114 神経系の構造と機能 神経疾患、高次脳機能障害、認知症		
3 9/10	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(感覚器) 【授業内容】P44～P45 P55～P56 P163～P175 感覚器の構造と機能 眼耳鼻の疾患と障害			11 11/5	【到達目標】 精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害について理解することができる。 【授業内容】P190～P201 代表的な精神疾患、精神保健福祉法に定められた入院、精神障害者にかかわる際のソーシャルワーカーの視点		
4 9/17	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(循環器系) 【授業内容】P34～P36 P48 P115～P121 循環器系の構造と機能 心疾患			12 11/12	【到達目標】 リハビリテーションの定義、概念を理解することができる。 【授業内容】P70～P89 リハビリテーションの定義・目的・対象・方法・		
5 9/24	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(呼吸器系) 【授業内容】P38～P39 P49～P50 P129～P137 呼吸器系の構造と機能 呼吸器疾患			13 11/19	【到達目標】 健康および疾病のとらえ方、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程について理解することができる。 【授業内容】P22～P30 P58～P67発がんまで 健康と疾病の概念 国際生活機能分類(ICF) 疾病の発生原因と成立機序		
6 10/1	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(消化器系) 【授業内容】P36～P38 P49～P50 P145～P150 消化器系の構造と機能 消化器疾患			14 11/26	【到達目標】 感染症、高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、公衆衛生について理解することができる。 【授業内容】P92～P100 P202～P212 P220～P231 感染症の概要と感染対策、高齢者に多く出現する病態・疾病の特徴、高齢者の健康維持増進に必要な対策、公衆衛生の概要		
7 10/8	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患について理解することができる(泌尿器系) 【授業内容】P39～P40 P50～P51 P138～P144 泌尿器系の構造と機能 泌尿器疾患			15 12/3	【到達目標】 授業内容の理解を深め定着させることができる。 【授業内容】 定期試験		
8 10/15	【到達目標】 人体を構成する器官系と臓器の名称、機能、疾患(生殖器) 口腔疾患、悪性腫瘍について理解することができる。 【授業内容】P40～P41 P51～P52 婦人科産科P184～P189 口腔疾患P177～P182 悪性腫瘍と緩和ケアP213～P218 生殖器の構造と機能・疾患 口腔疾患 悪性腫瘍と緩和ケア			【評価について】 筆記試験による100満点の定期試験を1回実施して評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	権利擁護を支える法制度 training for nurssry stuff	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小熊 永枝
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	第2クール 月曜 6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
児童養護施設に勤務して28年目。社会福祉士として埼玉県ホームレス支援、居住支援、成年後見、一般社団法人の代表として子ども食堂などの活動を行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、自ら権利を主張し、それを守り、適切に行使することができない人々の権利擁護について理解し、その権利をどのような法制度で守ることができるか考える。特に重要である意思決定支援の概念と用語について理解を深める。また「自身の権利行使の自由を守るために、他者からの介入を認める」という意味で、自身の後見活動に基づき成年後見制度の必要性について解説を行う。その上で、ソーシャルワーカーとして、当事者の権利擁護のための「最善の方法」を主体的に考察する視点を養う。							
【到達目標】							
①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について理解する。④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 中央法規出版 最新社会福祉士養成講座 第9巻(第2版) 「権利擁護を支える法制度」(2025年1月1日発行)				【授業外における学習】 授業を受けるに当たり、専門用語の下調べなどの予習や授業後の復習を行い、授業内容を深く理解する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 権利擁護に必要な法制度について理解する。 憲法の役割と概要を知る。 【授業内容】 第1章 ソーシャルワークと法のかかわり			9	【到達目標】 権利擁護にかかわる組織、団体の概要について学ぶ。 権利擁護にかかわる様々な専門職の役割について理解する。 【授業内容】 第5章 権利擁護にかかわる組織、団体、専門職		
2	【到達目標】 権利擁護にかかわる民法の基本となる原則を理解する。 行政活動の形式とその特徴を理解する。 【授業内容】 第1章 ソーシャルワークと法のかかわり			10	【到達目標】 法定後見制度の概要について理解する。 後見・補助・保佐の違いについて理解する。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
3	【到達目標】 我々を取り巻く決まり事の種類について理解する。 法の種類と制度について理解する。 【授業内容】 第2章 法の基礎			11	【到達目標】 任意後見制度の概要について理解する。 成年後見制度の利用動向について把握する。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
4	【到達目標】 判例の意義と種類を理解する。 権利擁護と判例の関係を理解する。 【授業内容】 第2章 法の基礎 判例検討			12	【到達目標】 我が国の少子高齢化の現状を知り、少子化対策の展開と保育所の役割を理解する。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
5	【到達目標】 権利擁護が打ち出された背景を理解する。 福祉サービスの適切な利用と苦情解決について理解する。 【授業内容】 第3章 権利擁護の意義と支える仕組み			13	【到達目標】 法定後見制度がどのような形で進んでいくのか、実例をもとに理解を深める。 【授業内容】 第6章 成年後見制度		
6	【到達目標】 虐待・暴力防止関係法の概要を理解する。 障害者差別解消法の概要を学び、合理的配慮のあり方を知る。 【授業内容】 第3章 権利擁護の意義と支える仕組み			14	【到達目標】 これまでの授業で得た知識を定着させるために、学習内容を振り返る。 【授業内容】 定期試験にむけて、学習の振り返り		
7	【到達目標】 支援付き意思決定支援は基本的人権として保障されていることを理解する。 意思決定支援ガイドラインについて理解を深める。 【授業内容】 第4章 権利擁護活動と意思決定支援			15	【到達目標】 これまで学習してきたことをもとに、様々な問題が解けるようになる。また、国家試験に向けて、自己の課題を見つけ今後の学習に生かす。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 インホームド・コンセントの概念と成立について学ぶ。 個人情報保護法と守秘義務について学ぶ。 【授業内容】 第4章 権利擁護活動と意思決定支援			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	高齢者福祉 Elderly welfare	必修選択	必修	年次	1	担当教員	永村 武大
学科・コース	社会福祉士養成科	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 金曜 7 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 特別養護老人ホーム 介護職員・生活相談員・介護支援専門員、居宅介護支援事業所 介護支援専門員 通算20年の実務経験あり							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ・施設と居宅サービスの経験を活かし、それぞれの場での実践(現実)を伝え、受講生自身の進路の参考となる授業を実施する。 ・現場においてソーシャルワークの理論や技術がどのように用いられているかを説明し、即戦力として活躍ができる力がつく授業を展開する。 ・双方向のコミュニケーションを大切にし、主体的に参加してもらい、一人一人が自らの考えを発信できる雰囲気の中で授業を進める。							
【到達目標】 1) 高齢者の特性、高齢者の生活実態と取り巻く環境について学び、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 2) 介護保険制度をはじめ高齢者に対する関連法や諸制度について学び、政策や法制度の概要について説明することが出来る。 3) 高齢者支援における関連機関や専門職の役割を理解し、事例検討を通じ実践的な視点を持つことが出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 2高齢者福祉』第2版 中央法規				【授業外における学習】 各種報道での高齢者を取り巻く状況についての情報をキャッチしておく。 居住地の自治体の介護保険パンフレットを入手し目を通しておく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 高齢者の定義と社会的、身体的、精神的特性および少子高齢社会について理解し、説明することができる。 【授業内容】 オリエンテーション 高齢者の定義と特性および少子高齢社会			9	【到達目標】 高齢者虐待防止法の理解と高齢者虐待防止に求められるソーシャルワーカーの役割を理解する。 【授業内容】 高齢者虐待防止法の概要 高齢者虐待の未然防止		
2	【到達目標】 高齢者の生活実態とこれを取り巻く環境について理解し、我が国の現状と課題について、自分の考えを述べることができる。 【授業内容】 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境			10	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 認知症基本法 バリアフリー法 高齢者住まい法 高齢者雇用安定法		
3	【到達目標】 高齢社福祉の歴史と理念について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢社福祉の歴史と理念			11	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 育児・介護休業法 市町村独自の高齢者支援		
4	【到達目標】 介護保険制度の概要について理解し、説明することができる①。 【授業内容】 介護保険制度の概要(枠組み 財政 保険料等)			12	【到達目標】 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割		
5	【到達目標】 介護保険制度の概要について理解し、説明することができる②。 【授業内容】 介護保険制度の概要(介護認定の仕組み等)			13	【到達目標】 高齢者と家族等に対する支援の実際について理解し、ソーシャルワーカーの役割について自分の考えを述べることができる。 【授業内容】 認知症ケア、終末期ケアにおけるソーシャルワーク高齢者と家族等に対する支援の実際		
6	【到達目標】 地域支援事業および地域包括支援センターについて理解し、説明することができる。 【授業内容】 地域支援事業の内容、地域包括支援センター			14	【到達目標】 高齢者と家族等に対する支援の実際について理解し、ソーシャルワーカーの役割について自分の考えを述べることができる。 【授業内容】 家族の介護負担軽減と就労支援、看取り支援、8050問題、近隣との関係性に課題のある事例の理解		
7	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者保健福祉の法定系 老人福祉法 高齢者医療確保法			15	【到達目標】 高齢者福祉の現状と課題について、自身の考えを述べることができる。 【授業内容】 まとめとフィードバック定期試験		
8	【到達目標】 高齢者に対する関連諸制度について理解し、説明することができる。 【授業内容】 高齢者保健福祉の法定系 老人福祉法 高齢者医療確保法			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を1回実施し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 89～80点＝B評価 79～70点＝C評価 69～60点＝D評価 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 国家試験合格と実践力強化を両輪として、授業を実施する。							

科目名 (英)	児童・家庭福祉 (Child and family welfare)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 均
学科・コース	社会福祉養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	第2クール 火曜 5 限
【実務経験】 埼玉県職員として、リハビリ施設の指導員、県立病院のMSWのほか、児童福祉司等として23年間児童相談所に勤務した。							
【授業の学習内容】 児童相談所における児童虐待対応実践や、社会福祉士会活動の実践経験を踏まえ、子どもと家庭を取り巻く福祉問題や制度について、単なる知識や理念の理解にとどまらず、現状の困難性ややりがいについても言及する。また、1992年に社会福祉士資格取得し、その後の社会福祉士会活動の実践経験を踏まえ、福祉専門職としての職業人の在り方にも触れる。							
【到達目標】 ・社会福祉士資格取得意欲が向上し、国家試験合格できる。 ・社会福祉士として実務能力を身につけ、即戦力としての活動できる。 ・社会福祉士としての基本姿勢(倫理)を理解し、利用者のニーズや心情を的確に把握できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「最新 社会福祉士養成講座専門科目3「児童・家庭福祉第2版」中央法規出版				【授業外における学習】 なるべく普段から新聞やテレビのニュースなどの社会福祉に関する話題に関心 を向ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会保障全体から「子ども問題」を理解する。また、社会福祉士の役割を理解し、社会福祉士を目指す動機付けとする。 【授業内容】 講義全体のオリエンテーション。子ども家庭福祉の基本とこの分野における社会福祉士の在り方			9	【到達目標】 母子保健や障害児福祉の意義や制度を深く知ることにより、実践力を身につける。 【授業内容】 母子保健制度、障害児福祉制度とその支援		
2	【到達目標】 「子ども、児童とは何か」、「子ども権利」、「子ども家庭福祉の理念」を理解することにより、「子ども家庭福祉」の原理を理解する。 【授業内容】 「子ども、児童とは何か」、「子ども家庭福祉の理念」、「子どもの権利」など「子ども家庭福祉」の原理・基礎			10	【到達目標】 保育や子育て支援の制度が、大きく変わってきた。ここをきっちり理解することで、子育て支援の全体を見通す。 【授業内容】 子育て支援制度・保育制度とその支援		
3	【到達目標】 現状の子ども家庭福祉を取り巻く様々な問題について、全般的に理解することにより、学習の方向性が見通す。 【授業内容】 少子化問題、児童虐待など現代社会の子どもや家庭を取り巻く様々な問題の概観			11	【到達目標】 非行児問題、いじめ問題、スクールソーシャルなどについて理解する。 【授業内容】 非行児への支援、若者支援、スクールソーシャルワーカーの活動		
4	【到達目標】 子ども家庭福祉の歴史を学ぶことにより、先人の努力と子ども家庭福祉の「特質性」を理解する。 【授業内容】 日本や欧米の子ども家庭福祉の歴史			12	【到達目標】 ひとり親家庭支援やDV問題等女性支援は、大きな社会的課題であり、理解を深め実践力を高める。 【授業内容】 ひとり親家庭福祉制度、DV問題とその支援		
5	【到達目標】 子ども家庭福祉にかかわる法制度や実施機関を体系的に学ぶことにより、子ども家庭福祉の全体的なしくみを理解する。 【授業内容】 子ども家庭福祉にかかわる法制度・実施体制			13	【到達目標】 社会的養護を子ども福祉の重要課題として、そして子どもの貧困問題の一課題としても理解する。 【授業内容】 子どもの貧困問題。社会的養護(里親、児童養護施設等)。その支援。		
6	【到達目標】 子ども家庭福祉制度にかかわる施設・専門職を学ぶことにより、それらを有機的なネットワークとしてとらえる。 【授業内容】 子ども家庭福祉制度にかかわる施設と専門職			14	【到達目標】 子ども家庭のソーシャルワークの基本的な視点、援助の過程、ネットワークの在り方等を学び、実践力を向上させる。 【授業内容】 子ども家庭への援助過程を理解する。		
7	【到達目標】 子ども家庭支援と児童相談所、市町村の業務や役割を理解する。 【授業内容】 子ども家庭支援における児童相談所、市町村の役割			15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、分からない部分を洗い出して、自分の課題を見つける。そして国家試験に合格する。 【授業内容】 定期試験、解答解説		
8	【到達目標】 大きな社会問題となっている児童虐待を、事例を交えながら学ぶことにより、リアルな問題としてとらえる。 【授業内容】 児童虐待問題の実態とその予防施策、介入施策、事後施策			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 この授業の内容は、他の科目の試験にも出る可能性があるので、科目間で関連付けて学習すると効率的である。							

科目名 (英)	児童・家庭福祉 (Child and family welfare)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 均
学科・コース	社会福祉養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	第2クール 火曜 5 限
【実務経験】 埼玉県職員として、リハビリ施設の指導員、県立病院のMSWのほか、児童福祉司等として23年間児童相談所に勤務した。							
【授業の学習内容】 児童相談所における児童虐待対応実践や、社会福祉士会活動の実践経験を踏まえ、子どもと家庭を取り巻く福祉問題や制度について、単なる知識や理念の理解にとどまらず、現状の困難性ややりがいについても言及する。また、1992年に社会福祉士資格取得し、その後の社会福祉士会活動の実践経験を踏まえ、福祉専門職としての職業人の在り方にも触れる。							
【到達目標】 ・社会福祉士資格取得意欲が向上し、国家試験合格できる。 ・社会福祉士として実務能力を身につけ、即戦力としての活動できる。 ・社会福祉士としての基本姿勢(倫理)を理解し、利用者のニーズや心情を的確に把握できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「最新 社会福祉士養成講座専門科目3「児童・家庭福祉第2版」中央法規出版				【授業外における学習】 なるべく普段から新聞やテレビのニュースなどの社会福祉に関する話題に関心 を向ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会保障全体から「子ども問題」を理解する。また、社会福祉士の役割を理解し、社会福祉士を目指す動機付けとする。 【授業内容】 講義全体のオリエンテーション。子ども家庭福祉の基本とこの分野における社会福祉士の在り方			9	【到達目標】 母子保健や障害児福祉の意義や制度を深く知ることにより、実践力を身につける。 【授業内容】 母子保健制度、障害児福祉制度とその支援		
2	【到達目標】 「子ども、児童とは何か」、「子ども権利」、「子ども家庭福祉の理念」を理解することにより、「子ども家庭福祉」の原理を理解する。 【授業内容】 「子ども、児童とは何か」、「子ども家庭福祉の理念」、「子どもの権利」など「子ども家庭福祉」の原理・基礎			10	【到達目標】 保育や子育て支援の制度が、大きく変わってきた。ここをきっちり理解することで、子育て支援の全体を見通す。 【授業内容】 子育て支援制度・保育制度とその支援		
3	【到達目標】 現状の子ども家庭福祉を取り巻く様々な問題について、全般的に理解することにより、学習の方向性が見通す。 【授業内容】 少子化問題、児童虐待など現代社会の子どもや家庭を取り巻く様々な問題の概観			11	【到達目標】 非行児問題、いじめ問題、スクールソーシャルなどについて理解する。 【授業内容】 非行児への支援、若者支援、スクールソーシャルワーカーの活動		
4	【到達目標】 子ども家庭福祉の歴史を学ぶことにより、先人の努力と子ども家庭福祉の「特質性」を理解する。 【授業内容】 日本や欧米の子ども家庭福祉の歴史			12	【到達目標】 ひとり親家庭支援やDV問題等女性支援は、大きな社会的課題であり、理解を深め実践力を高める。 【授業内容】 ひとり親家庭福祉制度、DV問題とその支援		
5	【到達目標】 子ども家庭福祉にかかわる法制度や実施機関を体系的に学ぶことにより、子ども家庭福祉の全体的なしくみを理解する。 【授業内容】 子ども家庭福祉にかかわる法制度・実施体制			13	【到達目標】 社会的養護を子ども福祉の重要課題として、そして子どもの貧困問題の一課題としても理解する。 【授業内容】 子どもの貧困問題。社会的養護(里親、児童養護施設等)。その支援。		
6	【到達目標】 子ども家庭福祉制度にかかわる施設・専門職を学ぶことにより、それらを有機的なネットワークとしてとらえる。 【授業内容】 子ども家庭福祉制度にかかわる施設と専門職			14	【到達目標】 子ども家庭のソーシャルワークの基本的な視点、援助の過程、ネットワークの在り方等を学び、実践力を向上させる。 【授業内容】 子ども家庭への援助過程を理解する。		
7	【到達目標】 子ども家庭支援と児童相談所、市町村の業務や役割を理解する。 【授業内容】 子ども家庭支援における児童相談所、市町村の役割			15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、分からない部分を洗い出して、自分の課題を見つける。そして国家試験に合格する。 【授業内容】 定期試験、解答解説		
8	【到達目標】 大きな社会問題となっている児童虐待を、事例を交えながら学ぶことにより、リアルな問題としてとらえる。 【授業内容】 児童虐待問題の実態とその予防施策、介入施策、事後施策			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 この授業の内容は、他の科目の試験にも出る可能性があるので、科目間で関連付けて学習すると効率的である。							

科目名 (英)	社会福祉の原理と政策 (Social Welfare:Principles and Policies)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西垣美穂子
		授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	前期(第1クール) 月 曜 5・6 限
学科・コース	社会福祉士養成科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 会福祉士の国家資格を取得後、大学院で保育や子どもの福祉、育つ環境について研究に携わり、非常勤講師として看護学校や専門学校で社会福祉学等を教えた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 社会福祉士の国家資格を取得後、大学院で保育や子どもの福祉、育つ環境について研究に携わり、非常勤講師として看護学校や専門学校で社会福祉学等を教えた。本科目は社会福祉士国家試験においても、社会福祉を理解する上でも基礎となる科目である。社会福祉の全体の制度、役割、倫理、現状などについて、今の日本や海外の動きに注目しながら学んでほしい。社会生活を営む上での福祉の持つ役割をしっかりと身につけてほしい。							
【到達目標】 ①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。②福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。③福祉政策の課題について理解する。④福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。)について理解する。⑤福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む。)の関係について理解する。⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新社会福祉士養成講座、精神保健福祉士養成講座『社会福祉の原理と政策』一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集				【授業外における学習】 毎回、授業で新しい単元を行うため、復習を行い授業に臨むこと。また現代の社会福祉の現状についても多く問われるので、日頃からニュースに目を通すこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 社会福祉の原理とは何かについて、現代社会における社会福祉の重要性と福祉制度・政策について理解できる。 【授業内容】 この科目の概要と内容について 社会福祉の原理(その意味と展開)			17・18	【到達目標】 日本の社会福祉制度の体系について、社会福祉法、事業、担い手、現在の社会福祉基礎構造改革について理解することができる。 【授業内容】 社会福祉の政策の構成要素と過程		
3・4	【到達目標】 社会福祉が向き合う社会問題について、家族ケアを中心に理解できる。 【授業内容】 現代における社会問題(1)			19・20	【到達目標】 福祉政策について、現在の動向と課題について理解できる。 【授業内容】 福祉政策の動向と課題		
5・6	【到達目標】 社会福祉が向き合う社会問題について、人口構造、産業構造、労働を中心に理解できる。 【授業内容】 現代における社会問題(2)			21・22	【到達目標】 福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。必要と受容の関係性・福祉政策の資源について理解することができる。□ 【授業内容】 福祉政策におけるニーズと資源		
7・8	【到達目標】 社会福祉の歴史について欧米の発展過程から、理解できる。 【授業内容】 社会福祉の歴史(1)			23・24	【到達目標】 現在の社会福祉の給付と規制、福祉サービスの供給と利用について理解することができる。□ □ 【授業内容】 福祉サービスの供給と利用の過程		
9・10	【到達目標】 社会福祉の歴史について日本の発展過程から、理解できる。 【授業内容】 社会福祉の歴史(2)			25・26	【到達目標】 日本の保健医療政策の特徴と福祉の連携等、福祉政策と関連政策について理解することができる。また現代の社会福祉政策の課題について理解することができる。 【授業内容】 福祉政策の関連領域(1)		
11・12	【到達目標】 価値規範としての福祉について目的概念、価値、社会福祉の範囲と定義について理解することができる。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解することができる。 【授業内容】 社会福祉の思想・哲学・理論			27・28	【到達目標】 日本の教育政策、住宅政策との連携等、福祉政策と関連政策について理解することができる。また現代の社会福祉政策の課題について理解することができる。□ 【授業内容】 福祉政策の関連領域(2)		
13・14	【到達目標】 社会福祉政策について、日本の法律体系から理解できる。 【授業内容】 社会福祉政策とは何か			29・30	【到達目標】 自分の学びを振り返り、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出しをし、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期末試験・解答解説		
15・16	【到達目標】 授業の振り返りの試験を行う。自分の学びを振り返り、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出しをし、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期末試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会保障	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	伊藤亮太
学科・コース	社会福祉士一般養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	45	開講区分 曜日・時間	前 期 火 曜 6・7 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後15年ほど年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。全体を通して、社会保障の制度を理解し、歴史的背景から実践の場での利用できる制度まで、ご自身にとって生涯役立つ内容を教授していく。							
【到達目標】 社会保障・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座「社会保障」(中央法規)				【授業外における学習】 授業終了後の復習を怠らないこと。社会保障に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【到達目標】 年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要④			24	【到達目標】 諸外国と日本を比較して、社会保障制度の違いを理解できるようになる。各国の年金、医療、介護がどのような仕組みなのか説明できるようになる。 【授業内容】 第6章諸外国における社会保障制度 第1節諸外国の社会保障		
17	【到達目標】 国民年金制度と厚生年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑤			25	【到達目標】 社会保障の国際化について各国との連携を説明できるようになる。過去問題をもとに、社会保障の仕組みを復習する。 【授業内容】 第6章続き 第2節社会保障の国際比較、第3節社会保障の国際化、過去問題演習		
18	【到達目標】 企業年金および個人年金のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑥			26	【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。その後の実務に活かせるように、〇×問題を解説していく。 【授業内容】 過去問題解説(一問一答形式)		
19	【到達目標】 年金マスター問題をもとに、各自年金の計算や誰が受け取れるのかなど公的年金制度の一般的なQ&Aに応えられるようになる。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑦			27	【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。その後の実務に活かせるように、〇×問題を解説していく。 【授業内容】 過去問題解説(一問一答形式)		
20	【到達目標】 労災保険の仕組みと実際の受給件数を確認し、労災状況を理解する。他の社会保険制度との違いを把握する。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第4節労災保険制度と雇用保険制度の概要①			28	【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験対策はもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。 【授業内容】 予想問題・過去問題による演習		
21	【到達目標】 雇用保険制度の概要を学び、実際に利用できる制度にどのようなものがあるのか理解する。労働保険制度を取り巻く環境の変化について理解する。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第4節労災保険制度と雇用保険制度の概要②			29	【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験対策はもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。 【授業内容】 予想問題・過去問題による演習		
22	【到達目標】 生活保護制度、社会手当制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第5節生活保護制度の概要、第6節社会手当制度の概要			30	【到達目標】 期末試験で合格点に到達する。解答解説を聞き、間違っていたところをなおすほか、その後の模試や本番の試験に活かすことができるようになる。 【授業内容】 期末試験および期末試験の解答解説		
23	【到達目標】 社会福祉制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。 【授業内容】 第5章 社会保障制度の体系、第7節社会福祉制度の概要			【評価について】 定期試験100点により評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 日頃から社会保障に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を把握しておくこと。							

科目名 (英)	障害者福祉	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	仲田 裕哉
学科・コース	社会福祉養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	第2クール 期 金 曜 6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害者支援施設やグループホームでの直接的な生活支援、相談支援事業所での相談業務を通じて、障害のある方々への支援に20年以上従事							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 障害福祉の制度や歴史に触れ、各法律の根拠となる時代背景の理解に繋げ、最終的には障害者総合支援法における対象者と提供されるサービスの理解に繋がっていきます。また、教員の実践経験の中で得た事例をふまえ、障害者支援の実態の理解に繋がるような授業を目指します。							
【到達目標】 ・障害の理解と、障害に関係する制度や法律理解とともに、障害者福祉の発展過程や関連について学ぶ ・障害者を取り巻く環境の理解と支援についての理解							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「障害者福祉」 中央法規				【授業外における学習】 障害者を取り巻く環境に係る情報の収集と共に、障害福祉分野に関連する情報(児童、高齢、生活保護、ケアラー等)にも関心を持つ			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 障害者福祉を学ぶにあたり、まずは「障害」の定義及びその特性について理解する。 【授業内容】 オリエンテーション 障害概念と特性			9	【到達目標】 障害者総合支援法成立までの経緯、理念・考え方について、及び全体像の理解 【授業内容】 障害者総合支援法		
2	【到達目標】 障害者福祉の実践における基本的な考え方となる理念について、過去ならびに現在における理念について学ぶとともに、どのような背景のもと実践が展開されてきたかについて理解する。 【授業内容】 障害者福祉の理念			10	【到達目標】 障害者虐待防止法、障害者差別解消法、その他障害者に関連する法律について学び、概要を理解する。 【授業内容】 障害者福祉に関連する法律の概要と整理		
3	【到達目標】 障害者福祉の歴史、制度、背景を学び、現在展開されている障害者福祉及び障害者の権利について理解する。 【授業内容】 障害者福祉の歴史			11	【到達目標】 行政機関、教育機関、医療機関等、障害者やその家族等の支援における関係機関の役割について理解する。 【授業内容】 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について①		
4	【到達目標】 障害者の生活実態について確認し、障害者が抱える課題やニーズについて把握する。 【授業内容】 障害者の生活実態			12	【到達目標】 障害者やその家族等への支援に係る専門職の役割について理解する。 【授業内容】 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について②		
5	【到達目標】 障害者基本法の内容と障害者福祉制度における位置づけ、成立過程とともに、改正点についての背景と内容の理解 【授業内容】 障害者基本法について			13	【到達目標】 事例を通じて個別具体的な障害者福祉の支援について学ぶ。 障害者と家族等に対する支援の実態		
6	【到達目標】 身体障害者福祉法制定の経緯、法の目的や対象、身体障害者手帳制度の理解 【授業内容】 身体障害者福祉法			14	【到達目標】 障害福祉サービスの確認(復習) 【授業内容】 講師の所属する法人の運営する障害福祉サービスを通じて		
7	【到達目標】 知的障害者福祉法、精神障害者福祉法、それぞれの制定の経緯、法の目的や対象、手帳制度の理解 【授業内容】 知的障害者福祉法 精神保健福祉法			15	【到達目標】 授業及び自己学習にて得られた障害者福祉に関する知識の確認 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 児童福祉法、発達障害者支援法、それぞれの制定の経緯、法の目的や対象について理解 【授業内容】 児童福祉法 発達障害者支援法			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	地域福祉と包括的支援体制 (Community Welfare & Comprehensive support system)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	若尾 尚子
	学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間
【実務経験】 県福祉事務所の相談員として4年、病院の医療ソーシャルワーカーとして10年以上勤務し、地域におけるソーシャルワークの協働を実践した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 病院の地域連携室・医療福祉相談室で医療ソーシャルワーカーとして10年以上、また県福祉事務所の相談員など長年ソーシャルワーク業務に従事してきた担当教員が、実践で培った経験をもとに、事例やディスカッションを交えながら講義を進める。本科目では、地域福祉の基本的考え方、展開、動向を理解し、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の意義と実際、展開を学ぶ。							
【到達目標】 ①地域福祉の基本的な考え方、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ②地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と役割、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ③包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解し、社会福祉士の役割とソーシャルワークの展開について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制 中央法規出版				【授業外における学習】 過去問題や模擬試験で問われた該当部分について確認すること。また、関連する報道等に関心を持ちチェックをすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 わが国の社会福祉の流れと「地域福祉と包括的支援体制」の科目について理解できる。地域社会の概念と理論、地域社会の変化について理解できる。 【授業内容】 イントロダクション 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題			17・18	【到達目標】 非常時や災害時における法制度を理解できる。 【授業内容】 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		
3・4	【到達目標】 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ、地域福祉と社会的孤立について理解できる。地域福祉の概念と理論、地域福祉の歴史について理解できる。 【授業内容】 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 第4章 地域福祉の基本的な考え方			19・20	【到達目標】 避難所の諸問題を知り、避難所を運営する上での注意点が理解できる。 【授業内容】 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		
5・6	【到達目標】 地域福祉のさまざまな推進主体について理解できる。 【授業内容】 第4章 地域福祉の基本的な考え方			21・22	【到達目標】 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援について理解できる。 【授業内容】 第6章 災害時における総合的かつ包括的な支援体制		
7・8	【到達目標】 地域福祉のさまざまな推進主体について理解できる。 【授業内容】 第4章 地域福祉の基本的な考え方			23・24	【到達目標】 地域を基盤としたソーシャルワークの方法、住民の主体形成に向けたアプローチ、具体的な展開について理解できる。 【授業内容】 第5章 地域を基盤としたソーシャルワークの展開		
9・10	【到達目標】 地域福祉の推進と福祉教育の課題について理解できる。地域共生社会の考え方について理解できる。 【授業内容】 第4章 地域福祉の基本的な考え方 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制			25・26	【到達目標】 福祉計画の目的、市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉計画の内容、策定方法、ニーズ把握の方法・技術、福祉計画の評価について理解できる。 【授業内容】 第7章 福祉計画の意義と種類、策定と運用		
11・12	【到達目標】 包括的支援体制、地域共生社会の構築と実現に向けた各種施策について理解できる。 【授業内容】 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制			27・28	【到達目標】 国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、福祉行政の組織および専門職の役割、福祉における財源について理解できる。 【授業内容】 第8章 福祉行財政システム		
13・14	【到達目標】 地域福祉ガバナンスにおける多職種連携、福祉以外の分野との他機関協働の仕組みや実際について理解できる。 【授業内容】 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働			29・30	【到達目標】 科目後半の重点箇所の確認と定期末試験を通じて、教科全体の到達目標の達成度を計ることができる。 【授業内容】 総まとめ 講義／定期試験(後)		
15・16	【到達目標】 科目前半の重点箇所の確認と定期試験を通じて、到達目標の達成度ををはかることができる。 【授業内容】 定期試験(前)／講義			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を2回実施。点数を合算し試験回数で割り、以下に換算して評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理学と心理的支援 (Psychology and Psychological support)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田島 葵
	学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 国試突破に必要な知識・概念を、日常生活における具体的な例や事例を用いながら解説していく。また、対人援助に必要な心理学的知見を、ただの丸暗記ではなく、日常体験に置き換えて体系的に理解してもらいたい。その中で、「他者を理解すること」、「他者に寄り添うこと」、「他者を援助すること」とはどういうことなのか、学びながら考えてほしい。							
【到達目標】 ・心理学理論による人の理解(アセスメント)が出来る。 ・人の成長・発達について説明できる。 ・心理的支援の理論と技法方法について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 新・社会福祉士養成講座 心理学理論と心理的支援 中央法規出版				【授業外における学習】 毎回の確認問題を確実に理解し、何故○なのか×なのか説明できるようにすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 現代の心理学の源流を説明できる。 心理学の研究法について説明できる。 【授業内容】 心理学の歴史 研究法			9	【到達目標】 フロイトの発達段階名からその特徴を説明できる。 エリクソンの発達段階における発達課題を順に列挙できる。 【授業内容】 発達とは 発達段階(エリクソン、フロイト)		
2	【到達目標】 認知の流れについて説明できる。 知覚の諸機能を列挙できる。 【授業内容】 感覚・知覚・認知			10	【到達目標】 各時期の環境の特徴から、発達課題を説明できる。 【授業内容】 発達段階(ピアジェ) 代表的な発達現象、愛着		
3	【到達目標】 感情に関する理論について説明できる。 動機づけの種類や理論について列挙・説明できる。 【授業内容】 感情 欲求と動機づけ			11	【到達目標】 発達障害について違いを理解し説明できる。 【授業内容】 発達障害		
4	【到達目標】 代表的な学習理論について説明できる。 学習に関する用語の違いを説明できる。 【授業内容】 レスポナント条件づけとオペラント条件づけ 学習や行動			12	【到達目標】 心理検査や知能検査について説明できる。 心理的支援における主な技法を理解し実践できる。 【授業内容】 心理アセスメント 心理的技法		
5	【到達目標】 記憶と加齢の関係を説明できる。知能の定義を説明できる。 類型論と特性論の違いを理解し分類できる。 【授業内容】 記憶の種類、知能 性格と気質、パーソナリティ			13	【到達目標】 各心理療法名からその技法を列挙できる。 各心理療法名からその悩みの構造を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
6	【到達目標】 対人認知・社会的認知・援助行動について列挙し説明できる。 他者や集団の影響が引き起こす現象について説明できる。 【授業内容】 社会心理学 コミュニケーション			14	【到達目標】 精神保健的支援や自立の支援、心理的ケアについて違いを理解し説明できる。 【授業内容】 ソーシャルワークと心理学		
7	【到達目標】 ストレスについてホメオスタシスの観点から説明できる。 心理社会的ストレスモデルについて説明できる。 【授業内容】 ストレス 健康生成論			15	【到達目標】 自分の理解が足りない所を確認する。 国試形式の問題で自分が陥りやすいミスの要因を確認する。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 脳の各機能を説明できる。 各神経発達症名から特徴を列挙できる。 【授業内容】 脳と心の関係 脳機能イメージング			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	貧困に対する支援	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐藤 史子
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	2 期 水 曜 5 限
【実務経験】 生活保護利用者支援、生活困窮者支援の経験が5年以上ある。							
【授業の学習内容】 貧困の概念、貧困状態にある人々の生活実態を理解したうえで、貧困状態にある人々に対する支援制度（生活保護制度および生活困窮者自立支援制度など）について解説する。さらに相談援助の実際を事例を通して学び、社会福祉士としての適切な支援のあり方、果たすべき役割を解説する。							
【到達目標】 ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する ③貧困にかかる法制度と支援の仕組みについて理解する ④貧困による生活課題を踏まえ、福祉専門職としての適切な支援のあり方を自ら考え理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 最新 社会福祉士養成講座4「貧困に対する支援」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 随時文献の紹介				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会福祉士が貧困に対する支援を行う意義を理解する 公的扶助の概念を理解する 【授業内容】 公的扶助の概念 オリエンテーション 公的扶助の概念、意義、役割 貧困に対する支援における社会福祉士の役割			9	【到達目標】 生活困窮者自立支援法について理解する 【授業内容】 生活困窮者自立支援制度 生活困窮者自立支援法の理念と概要 各事業の概要 支援の流れ		
2	【到達目標】 貧困の概念を学び、その生活実態や環境を理解する 【授業内容】 貧困の概念 貧困の概念、貧困状態にある人の生活実態および社会環境			10	【到達目標】 さまざまな低所得者対策を理解する 【授業内容】 さまざまな低所得者対策 生活福祉資金貸付制度 無料低額宿泊所 公営住宅制度		
3	【到達目標】 貧困の歴史を概観し、貧困観の変遷や制度の発展過程を理解する 【授業内容】 貧困の歴史 貧困の歴史 貧困観の変遷 貧困に対する制度の発展過程			11	【到達目標】 ホームレス自立支援法 ホームレスの考え方と動向等を理解する 【授業内容】 ホームレス対策 ホームレス自立支援法 ホームレスの考え方と動向 支援施策		
4	【到達目標】 生活保護制度の目的、原理原則を理解する 【授業内容】 生活保護制度 その1 生活保護法の目的 原理原則と概要			12	【到達目標】 貧困に対する支援における公私の役割関係について理解する 【授業内容】 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 その1 公私の役割関係 国、都道府県、市町村、福祉事務所の役割		
5	【到達目標】 生活保護制度の扶助の種類について理解する 【授業内容】 生活保護制度 その2 8つの扶助 最低生活費と生活保護基準			13	【到達目標】 自立相談機関、様々な関係機関の役割を理解する 【授業内容】 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 その2 自立相談支援機関の役割 さまざまな関係機関の役割		
6	【到達目標】 生活保護制度の権利、義務、不服申立て 財源予算について理解する 【授業内容】 生活保護制度 その3 権利、義務、保護施設 不服申立て 財源・予算			14	【到達目標】 貧困に対する支援の実際を学び、福祉専門職としての適切な支援のあり方を自ら考え理解する 【授業内容】 貧困に対する支援の実際 事例 支援における社会福祉士の役割		
7	【到達目標】 生活保護制度に関する動向を理解する 課題について考えることができる 【授業内容】 生活保護制度 その4 生活保護制度に関する動向			15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、理解を定着させる 【授業内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 これまでの授業で学習したことを過去問や予想問題実施し、自身の理解度を知る 【授業内容】 前半の振り返り、中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	福祉サービスの組織と経営	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	伊藤亮太
学科・コース	社会福祉士一般養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	22.5	開講区分 曜日・時間	後 期 木 曜 7 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後15年ほど年金・医療・介護・資金計画等で経営コンサルティングに携わっている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。全体を通して、福祉サービスの組織と経営の制度を理解し、実践の場での利用できる制度まで、ご自身にとって生涯役立つ内容を教授していく。							
【到達目標】 福祉サービスの組織と経営を理論、実践から正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新版「福祉サービスの組織と経営」(中央法規)				【授業外における学習】 授業終了後の復習を怠らないこと。社会福祉に関連する組織や経営のニュースなど日ごろから新聞等を用いて注目しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 福祉サービスを提供する組織や管理について理解し、説明できるようになる。社会福祉法人の役割、形態を説明できるようになる。 【授業内容】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第1節 福祉サービスを提供する組織(特に社会福祉法人、特定非営利活動法人)			9	【到達目標】 社会福祉法人と企業では、財務管理の目的が異なることを理解する。事業活動計算書、資金収支計算書の違いを理解し、説明できるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第5節 会計管理と財務管理		
2	【到達目標】 法人の基本形態を理解する。その中でも医療法人や営利法人の役割、形態を説明できるようになる。 【授業内容】 第1節 福祉サービスを提供する組織(特に医療法人、営利法人) 第2節 福祉サービスの沿革と概況			10	【到達目標】 人材マネジメントの基本的内容を知り、福祉人材マネジメントの特性を理解、説明できるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第5節 会計管理と財務管理 第4章 福祉人材のマネジメント		
3	【到達目標】 福祉サービスの沿革を確認し、これまでの経緯を把握する。組織間連携とは何かを理解し、その意義について説明できるようになる。 【授業内容】 第1章 福祉サービスに係る組織や団体の概要 第2節 福祉サービスの沿革と概況 第3節 組織間連携と促進			11	【到達目標】 福祉人材の必要性についての理解を深める。組織における人材育成の仕組みと方法を理解し、実務でも役立てられるようになる。 【授業内容】 第4章 福祉人材のマネジメント 第1節 福祉人材マネジメント、第2節 福祉人材の育成		
4	【到達目標】 福祉分野における組織の特徴と特異性を学び、ご自身で説明できるようになる。 【授業内容】 第3節 組織間連携と促進 第2章 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 第1節 組織運営に関する基礎理論など			12	【到達目標】 福祉人材にとって働きやすい労働環境とは何かを知り、説明できるようになる。労務管理の基本を理解する。 【授業内容】 第4章 福祉人材のマネジメント 第3節 働きやすい労働環境の整備、問題演習		
5	【到達目標】 集団の概念、および個人の集合を超えた集団独特の特性を理解する。リーダーシップ論を理解し、実務でも役立てられるようになる。 【授業内容】 第2章 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 第2節 集団の力学に関する基礎理論 第3節 リーダーシップに関する基礎理論			13	【到達目標】 五股択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるほか、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。 【授業内容】 予想問題・過去問題による演習		
6	【到達目標】 社会福祉法人と理事等・株式会社と取締役等の関係を理解する。コンプライアンス、ガバナンスの意味を理解し、実務でも役立てられるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第1節 経営体制 第2節 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス			14	【到達目標】 五股択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるほか、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。 【授業内容】 予想問題・過去問題による演習		
7	【到達目標】 福祉経営の特質は何かを理解する。経営戦略やマーケティングなどの用語を理解し、使えるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第3節 適切な福祉サービスの経営管理			15	【到達目標】 期末試験にて合格点に到達する。解答解説を聞き、間違えたところを確認、その後の模試や本試験で活かせるようになる。 【授業内容】 期末試験および解答解説		
8	【到達目標】 福祉経営における事例を通し、自分自身が理想とする福祉経営の姿を考察できるようになる。 【授業内容】 第3章 福祉サービス提供組織の経営と実際 第3節 適切な福祉サービスの経営管理 第4節 情報管理			【評価について】 定期試験にて評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 日頃から組織経営に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで最新情報を把握しておくこと。							

科目名 (英)	保健医療と福祉 (Medical care & Welfare)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田邊 慎悟
学科・コース	社会福祉士養成科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 5限
【実務経験】 医療相談員としての実務経験のほか、現在では社会福祉士会における災害対策委員として被災地支援および県内の災害対策を行っている。							
【授業の学習内容】 MSW成立までの歴史を理解すると同時に、診療報酬の仕組み、保険の仕組みといった医療福祉の枠組みを理解する。そして、患者だけではなく、家族を含めた家族システムの視点を養い、多職種連携・協働を踏まえたチームアプローチが考えられるよう、事例を用いながら学ぶ。							
【到達目標】 ①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 最新・社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉 中央法規出版				【授業外における学習】 教科書の他にも、新聞やニュースなど医療福祉に関する情報は気にかけるようにしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 医療ソーシャルワーカーの歴史を学ぶとともに、基礎的な医療用語を理解する 【授業内容】 オリエンテーション:医療ソーシャルワーク ～MSW/PSWとは？～			9	【到達目標】 医療保険制度及び年金保険制度について理解をする。 【授業内容】 医療保障制度		
2	【到達目標】 岡村重夫が述べる、基本的要求を理解するとともに、意思表示が困難な方の意思決定支援の重要性や死についての受容段階を理解する。 【授業内容】 健康の定義:病が生活に与える影響			10	【到達目標】 障害・児童における公費負担医療について理解するとともに、低所得者に対する医療保障を理解する。 【授業内容】 公費負担医療		
3	【到達目標】 患者にとって家族はどういった存在であるのか。そして家族がもつ力や患者が家族または家族が患者に与える影響について理解をする。 【授業内容】 家族の理解			11	【到達目標】 介護と医療の給付の関係性について理解をする。 【授業内容】 医療保険と介護保険		
4	【到達目標】 ACPの必要性和選定されるまでの歴史を事例を通して理解する。 【授業内容】 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)			12	【到達目標】 多職種を理解すると同時に、チーム医療とは何か、そしてチーム医療を行っていくために必要なことを理解する。 【授業内容】 医療専門職との多職種連携・協働		
5	【到達目標】 日本において志望要因に関する疾病を理解するとともに、医療の提供場所の変化と展望について理解をする。 【授業内容】 疾病構造			13	【到達目標】 医療ソーシャルワーカー業務指針、医療ソーシャルワークの歴史、医療ソーシャルワーカーの実践事例から医療福祉問題を理解できる。 【授業内容】 MSWの業務指針と倫理		
6	【到達目標】 ハンセン病の歴史を通して【国家主導の差別】を理解する。あわせて、終末期における支援において留意する点を理解する。 【授業内容】 難病と終末期ケア			14	【到達目標】 1回目～13回目の知識を活用し、事例を通して①患者状況の要約、②考えの言語化、③今後の課題を立案することができる。 【授業内容】 医療福祉アセスメント		
7	【到達目標】 出来高払い方式とDPC方式の理解をする。同時に、診療報酬が決定するまでの流れを理解する。 【授業内容】 保健医療制度			15	【到達目標】 保健医療の課題を持つ人にかかわり支援を行う社会福祉士としての知識の習得と理解ができる。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 高額療養費制度について、対象および算出方法を理解する 【授業内容】 高額療養費制度および標準額負担限度額適用認定証			【評価について】 筆記試験による100点満点の定期試験を1回実施し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 E評価の場合、面談を実施する。面談内容によって、特別補講を開講するか検討をする。							